



代表取締役
嶋田 信彦

日本の原土の枯渇を防いで
良質な陶土を製造し、
環境面で日本社会に貢献します

当社のような陶磁器用粘土の製造メーカーは全国で数十社程度しかなく、業界自体がニッチな分野です。製販一体となった陶器事業を目指すべく、原料供給側の当社は製造窯元のさまざまな要望に応えてきました。また、これからもあらゆる要望に応えていく方針です。今や製品の品ぞろえは補助事業前の160種から200種まで増えようとしています。

かねてより「信楽の粘土は作りやすい」「バランスがよく初心者にもやさしい」と言われます。今回の補助事業で不純物を減少させた品質の良い陶土の生産が可能となりました。当社としては不純物の少ない製品の開発を目指しており、独自性の高い「高品質な信楽粘土」として差別化した商品にしたいと考えています。

設備面では分解洗浄の際に洗いやすい設備に更新しています。無駄な時間をかけずに効率的に良い品質の製品を生産することを目指しています。日本は全国的に原土の枯渇が危惧されています。当社はさまざまな施策により、良質な原土の争奪による環境破壊をくい止めて、近隣で調達した鉄分が多い原土でも使用できる生産体制を構築することで環境面でも日本社会に貢献していきます。



株式会社精土

代表取締役 / 嶋田 信彦 従業員数 / 16人
 資本金 / 5,400万円 設立年月 / 1982年7月
 事業内容 / 陶磁器用粘土の製造・販売
 住所 / 滋賀県甲賀市信楽町江田947-1
 連絡先 / TEL.0748-82-1177
 FAX.0748-82-0762
 代表E-mail / seido@e-nendo.com

<https://e-nendo.com>



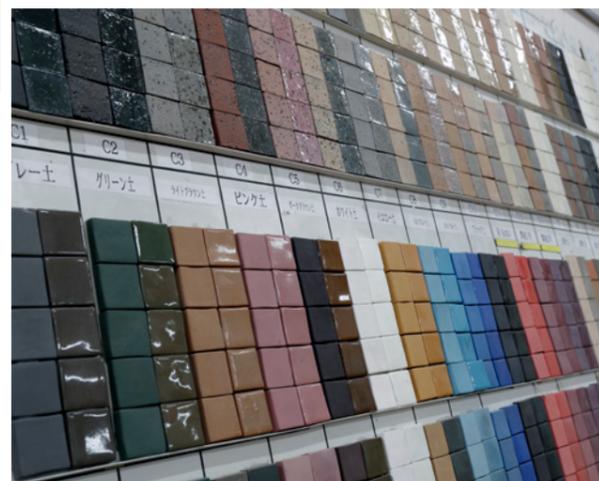
Point
ものづくり補助金活用
ここがポイント!



品質については脱鉄設備を増設することで、製品中の50ミクロン以上の粉鉄が完全除去できています。さらに高度排水浄化処理設備によって一方通行の浄化処理を行えるようになった結果、河川放流基準より大幅に改善された排水が可能となりました。

また原土から陶芸用粘土を生産して残った排泥・廃土を今まで廃棄していましたが、現在はこの排泥の鉄分を除去することで、再生した排泥を商品化することが可能となりました。排泥再生化で歩留り率が向上し、原料の仕入率が10%改善されてコスト的なメリットも生まれました。

Future
今後の展望



当社の販売地域は信楽エリアが約30%で、それ以外の地域が過半数を占めています。日本の陶磁器の中心地である瀬戸・美濃・有田でも普通に受け入れられるような高品質な陶土を目指しています。鉄粉を除去した高品質な信楽粘土で中部東海地域や九州地域に販売を伸ばしていく方針です。

さらに最近では海外からの受注が増えてきています。今後は品揃えの豊富さと高品質で、海外に販路を伸ばしていきたい方針です。

▶ 株式会社精土

令和元年度補正
事業類型 / 一般型(通常枠)

不純物除去プロセスの高度化による
高品質化および生産性向上の実現



③高度排水浄化処理設備 / 一方通行の浄化設備で放流水の河川放流基準を達成できる

高度排水浄化処置により
多品種小ロット生産体制を構築



①脱鉄機 / 鉄粉を徹底除去



②脱水プレス / 水分を除去



④混練土練 / 基本土を調合して製品化

当社は「信楽陶の土」をトレードマークに創業から40年以上陶磁器用粘土を製造販売しています。品揃えの豊富さと安定品質を目指して、160種類の陶土を製造しています。当社から分社化した釉薬製造会社とグループ連携し、総合陶芸用品の製造販売体制を確立しています。

補助事業のきっかけは、陶磁器用原土の品質が劣化傾向になってきたためです。脱鉄処理設備(磁選選鉱)をさらに増設することが必要になってきました。従来からの処理水循環再生式では脱鉄の効果が発揮し難いのです。これまで原土精製・脱鉄処理後の排泥水を沈降沈殿させ、上水を循環水として再使用していました。そのため不純物が循環水に戻る場合が稀にあり、結果として脱鉄の効果が低いという状況でした。近年は用途が広がって多品種化とともに不純物の無い高品質化が求められています。

そこで補助事業では、新たに排水処理設備を導入し、原土精製・脱鉄処理後の排泥水は完全処理したうえで河川放流し、処理水・混練水は浄水を使う方式としました。これにより脱鉄処理の効果が100%発揮できるようになりました。

あわせて、従来は特定種の製品のみ脱鉄を施していましたが、脱鉄設備を増設して基本土全部に脱鉄処理を行う仕組みにしました。従来の循環式排水処理をやめて、高度な排水浄化設備を導入して、一方通行の水質処理で排水を高度に浄化できる仕組みが整いました。

新型コロナウイルスの影響で売上高は若干減少しましたが、平常化しつつある今期は売上高が伸びています。なお、補助事業を実施したことで鉄粉が少ない良質な粘土を生産できただけでなく、今まで汚泥として廃棄していた土を脱鉄機で鉄粉を取ることで再生して商品化することができています。この結果、限りある原土を無駄にすることなく有効活用できるようになりました。経営面においても歩留り向上、利益向上が見込めます。